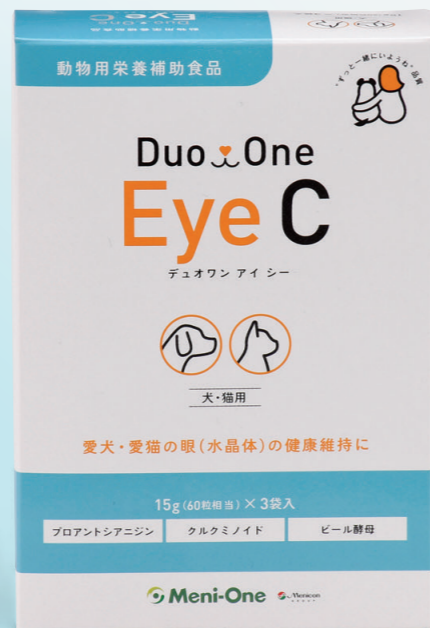




網膜
の健康維持

(旧メニわんEye II)



水晶体
の健康維持

(旧メニわんEyecare II)



眼
(網膜・水晶体)
の健康維持

(旧メニわんEye R/C)



眼
圧が気になるときに

(旧メニわんカシスG)

Duo One Eye 症例集

デュオワン アイ

— 旧メニわんEye IIシリーズ —

1

『獣医眼科学専門医が 認めた使用例』



Duo One Eye R (旧メニわんEye II)
進行性網膜萎縮
どうぶつ眼科EyeVet
院長 小林 一郎 先生

Duo One Eye C (旧メニわんEyecare II)
初発白内障
上杉動物眼科クリニック
院長 藤井 裕介 先生

Duo One Eye R&C (旧メニわんEye R/C)
**水晶体核硬化症、虹彩萎縮
加齢性網膜変性の疑い**
動物眼科センター
センター長 太田 充治 先生

Duo One Eye G (旧メニわんカシスG)
緑内障
どうぶつ眼科専門クリニック
院長 辻田 裕規 先生





獣医師紹介
小林 一郎先生
どうぶつ眼科EyeVet
院長
獣医眼科学専門医



【症 例】ミニチュアダックスフンド(ブラック&タン) 2008.05.10生まれ 避妊雌 体重:3.2kg

【診断名】**進行性網膜萎縮**

処方期間:約10年 併用点眼液:なし

※その他、現在に至るまで治療が必要な眼科疾患は認められていない。

既 往 歴:2019年11月/肝臓の腫瘍を切除(病理にて肝細胞癌と診断される。)

Duo One Eye Rの使用経過

- 2010年~ ダックスという犬種柄、進行性網膜萎縮が多いため、サプリメントの用量として4錠で投与を開始。この時は明らかな網膜変性の所見は認められなかった。比較的、何でも食べるタイプで自ら好んで食べるため、フードと一緒に与えると問題無く摂取でき継続できた。
- 2015年~ 約1年間は飼い主の都合で継続的な投与をしていなかった。
- 2017年 春以降から軽度の夜盲症状が認められ、投与量を4から6錠へ変更した。
- 2018年 飼い主の都合で再度数ヶ月間投与を休止していた。
- 2019年 4月以降は6錠で投与を続けて、現在に至る。

症例の経過

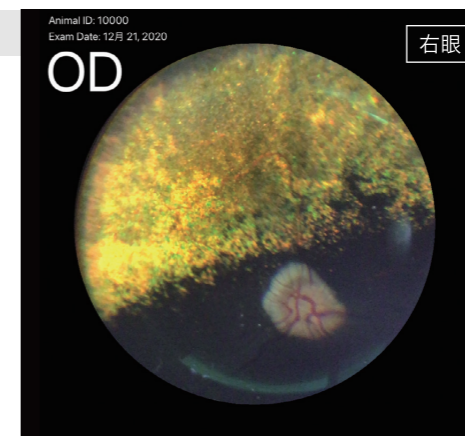
- 2017年6月9日 夜盲症状が認められ進行性網膜萎縮と診断。
ERGを初めて実施/OD:129.38 μ V OS:109.75 μ V
- 2019年5月1日 夜盲症状はあるが明所での視覚異常は認められない。網膜変性中期の所見(タペタム領域での血管の狭細化と反射亢進像あり)
ERG/OD:121.75 μ V OS:100.75 μ V
- 2020年1月31日 視覚変化なし。以前より進行した印象の網膜変性中期の所見(タペタム領域での血管の狭細化と反射亢進像あり)
ERG/OD:101.38 μ V OS:100.19 μ V
- 2020年6月19日 視覚変化なし、前皮質に初発白内障あり、網膜変性中期。
ERG/OD:95.94 μ V OS:107.81 μ V

- 2020年12月25日 視覚変化なし、左眼の白内障がやや進行。網膜変性中期から後期にさしかかる。
ERG/OD:120.75 μ V OS:116.25 μ V
- 2021年1月22日 視覚変化なし。両眼共に初発白内障あり。眼底所見は変わらず。
ERG/OD:142.25 μ V OS:138.00 μ V

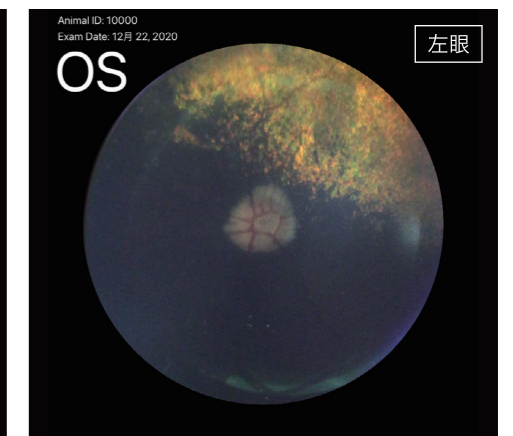
まとめ

網膜の変性所見より視覚障害が疑われますが、日常生活に支障はなく過ごしています。眼底所見では病期は進行している状態ですが、ERGの検査結果上は網膜機能は維持されています。投与している個体でここまで良好な状態が維持されているのはDuo One Eye R(ビタミンEおよびアスタキサンチン)の投与の効果であると考えます。今後も継続的な投与と定期的にチェックすることをお勧めします。

眼底画像

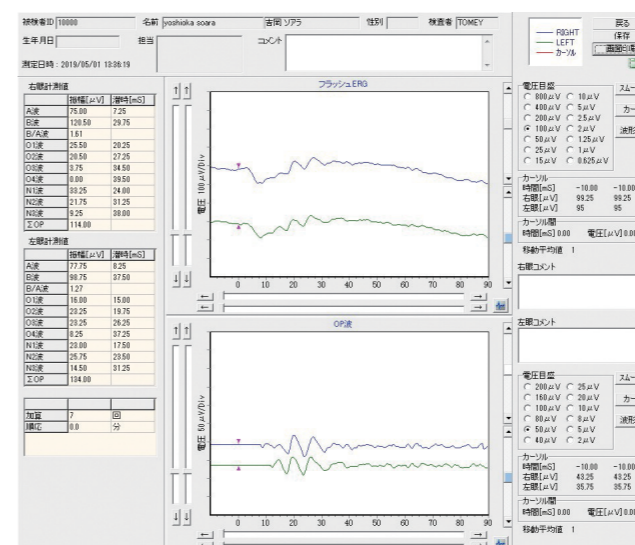


2020年12月25日撮影

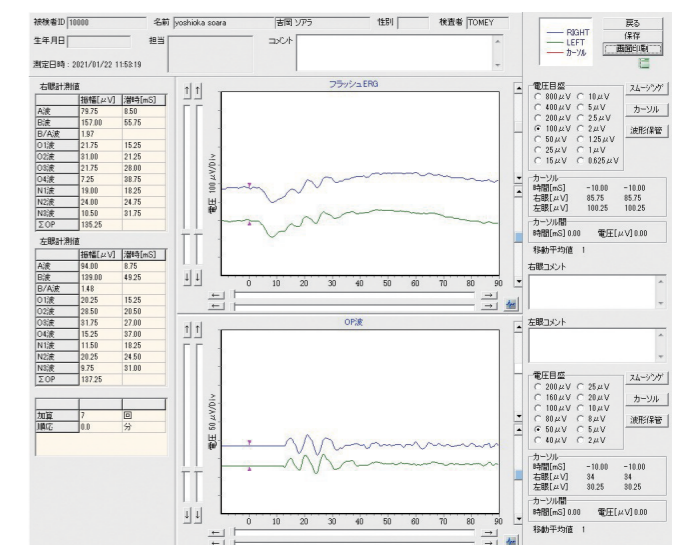


2020年12月25日撮影

ERG測定結果



2019年5月1日測定



2021年1月22日測定



獣医師紹介
藤井 裕介 先生
 上杉動物眼科クリニック
 院長
 獣医眼科学専門医



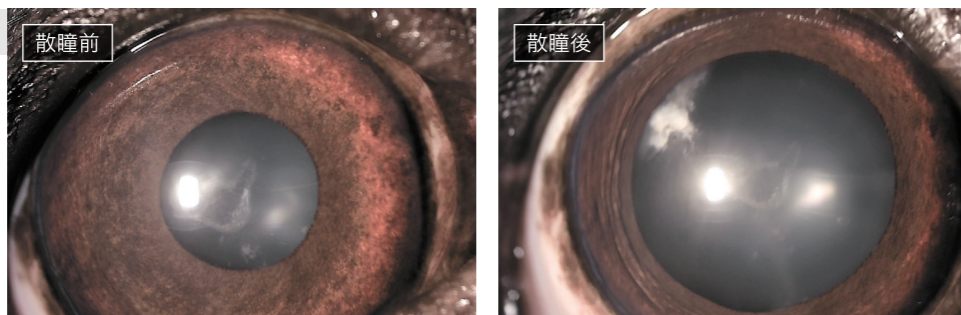
【症 例】フレンチブルドッグ 8歳8カ月 去勢雄 体重:12.64kg

【診断名】**初発白内障**

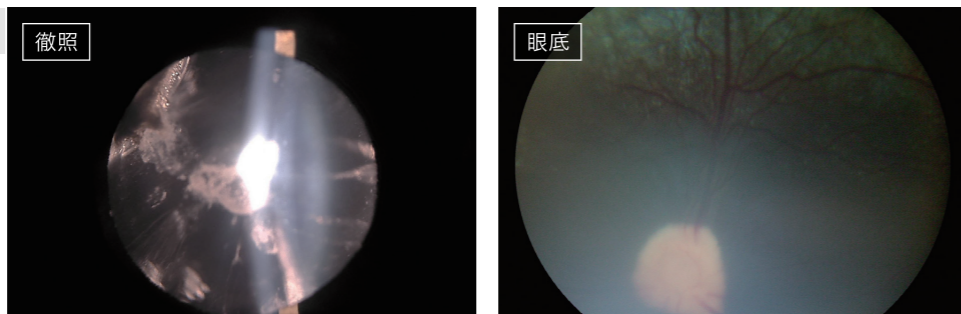
主 訴: 瞳孔縁の白濁、視覚障害なし

方 針: Duo One Eye C/日(1回2粒BID)による進行予防と3ヵ月毎の進行具合のチェック

初診 | 散瞳前・後
前眼部



初診 | 散瞳後
水晶体及び眼底



初診から3ヵ月後

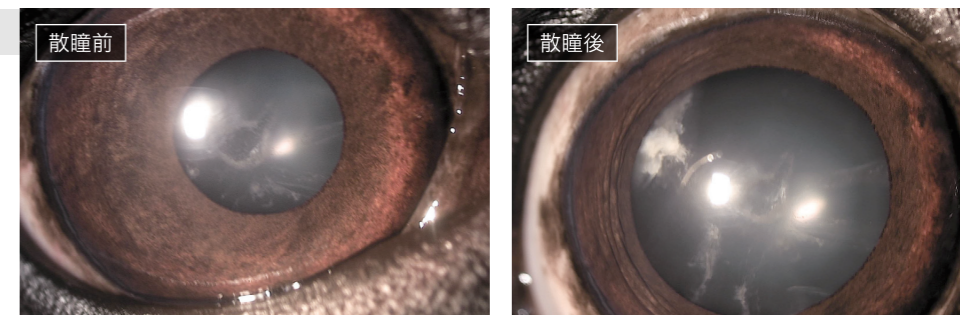
経過: 視覚障害なし

確認: Duo One Eye Cはしっかりと飲んでいる。副作用はない。

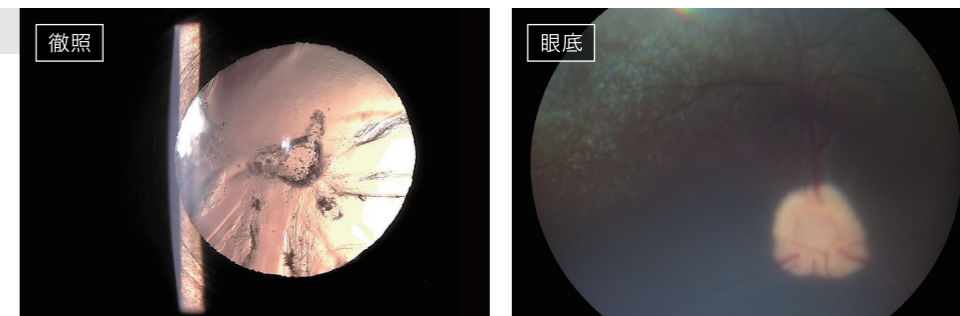
診断: 検査上白濁は増えたもののステージは初発白内障のまま

方針: Duo One Eye C/日(1回2粒BID)による進行予防の継続と3ヵ月後の再診

3ヵ月後 | 散瞳前・後
前眼部



3ヵ月後 | 散瞳後
水晶体及び眼底

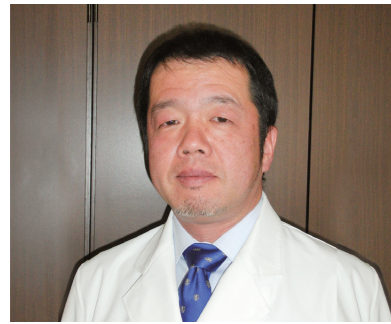


その他の注意点

フレンチブルドッグは白内障手術後に緑内障を発症しやすい犬種のため、緑内障を発症すると多くの犬で失明することから、本症例の場合は少しでも見えている間は積極的に白内障手術は望まないことをご家族と同意した。サプリメントを毎回 2 箱 (1 箱 1.5 ヵ月分) ずつ処方することで、サプリメントがなくなるタイミングが 3 ヵ月毎の定期健診のタイミングとなるようにした。

まとめ(使用してみた感想)

サプリメントを使い切るタイミングが再診のタイミングというのがご家族にとってわかりやすく、サプリメント処方の良い選択肢だと思います。勿論白内障が進行する可能性もあるため、サプリメントを処方する際にはサプリメントを使い切る前に白内障の進行をご家族が感じた場合は来院するようにお伝えするべきだと思います。初発白内障症例に対してはサプリメント処方を選択肢として提示しても良いと思いますが、そのためには白内障の臨床ステージをしっかりと診断することが重要です。サプリメントを成熟白内障症例に処方すべきではありません。またサプリメントは動物に対して口を開けて無理やり服用させるものではないと思っています。症例自らサプリメントを食べてくれることが望ましく、それが難しくそれでも服用させたいという要望をご家族からある場合は、調理した食事にサプリメント混ぜることも可能なので投与方法についてご不明な点がございましたらメニワン様へお問い合わせください。そしてサプリメントは治療薬ではなく進行予防という位置づけであり、サプリメント服用中でも白内障と言う病気は着実に進んでいくことを病院側とご家族側が共通の認識として理解しておくことが大切です。



獣医師紹介

太田 充治 先生

動物眼科センター
センター長
獣医眼科学専門医



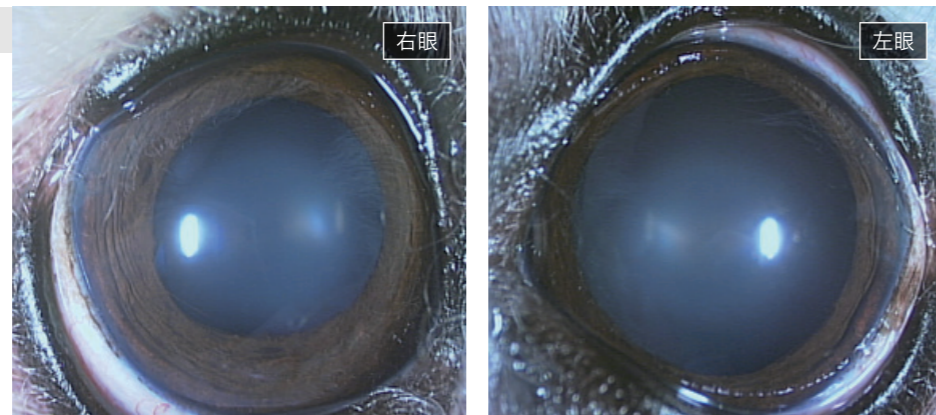
【症 例】トイ・プードル 10歳3ヶ月齢 避妊雌 体重：4.9kg

【診断名】 **両眼の水晶体核硬化症、虹彩萎縮（右眼<左眼）**
加齢性網膜変性の疑い（暗所での視覚低下）

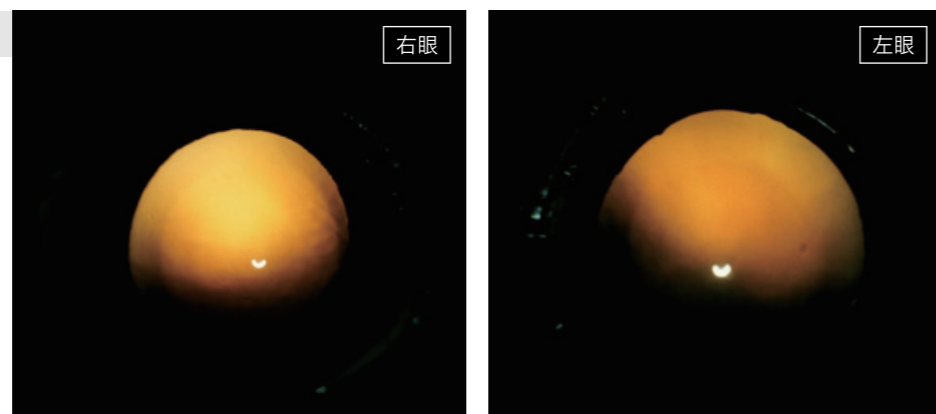
処 方：Duo One Eye R&C / 1日4錠（処方開始から1年6ヶ月経過）

併用点眼薬：ライトクリーン / 1日3～5回・両眼

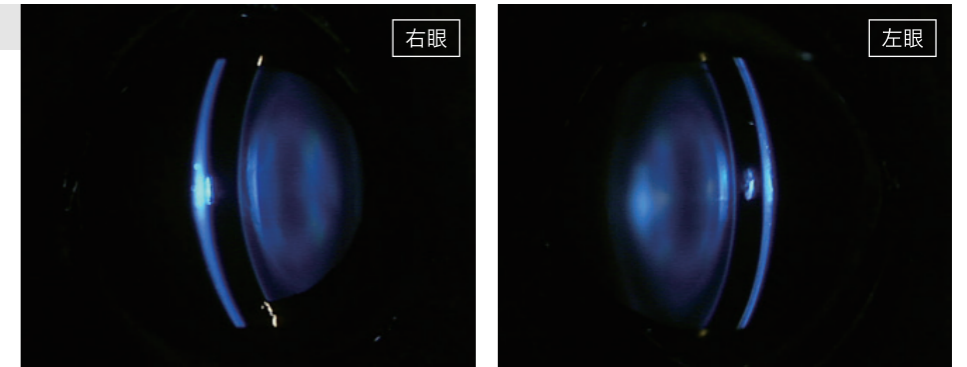
投与開始前
前眼部所見



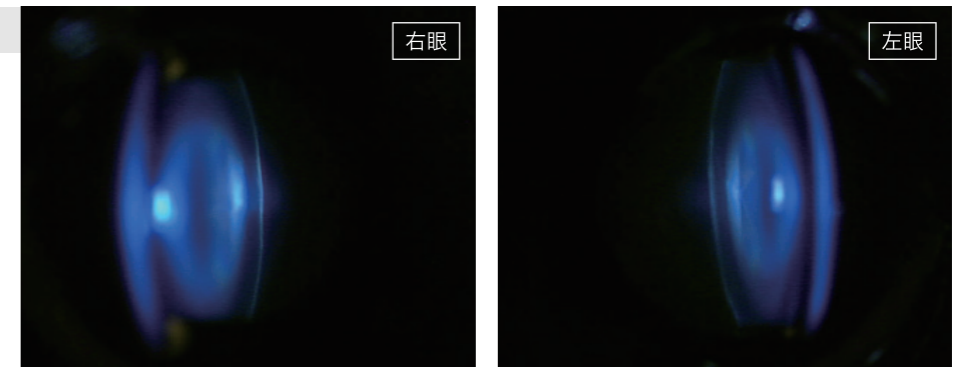
投与開始前
水晶体徹照所見



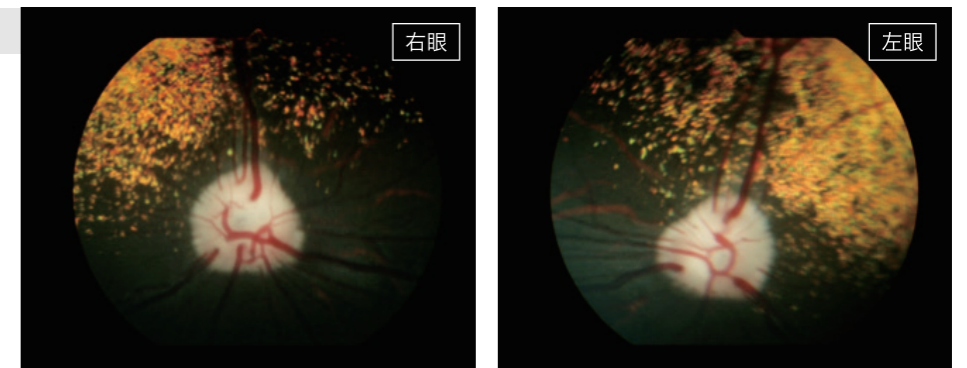
投与開始前
水晶体スリット所見（前部）



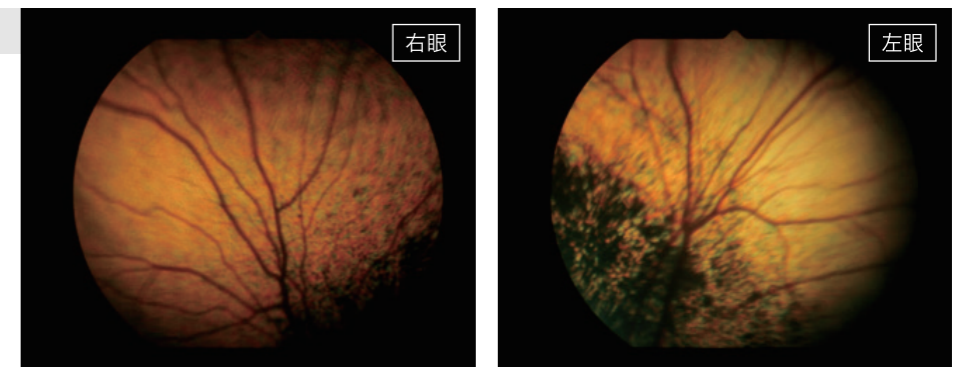
投与開始前
水晶体スリット所見（後部）



投与開始前
眼底所見（視神経乳頭）



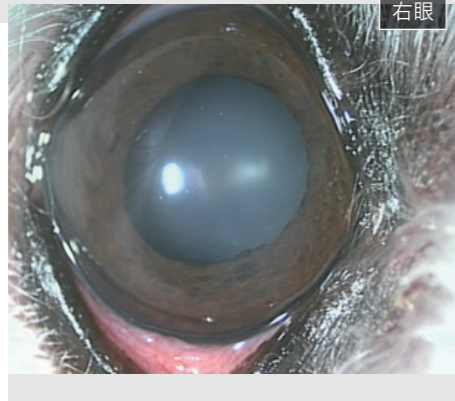
投与開始前
眼底所見（タペタム）



経過 水晶体：右眼は核硬化症の若干の進行を認めるが、白内障は認められず
左眼には核硬化症の進行、ごくわずかな初発白内障発症を認める
網 膜：両眼とも大きな変化（網膜変性の進行）は認められず

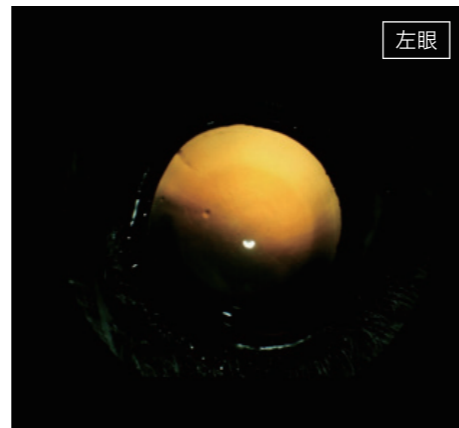
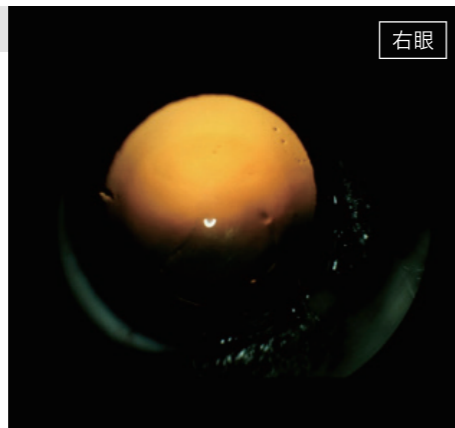
投与開始後1.5y

前眼部所見



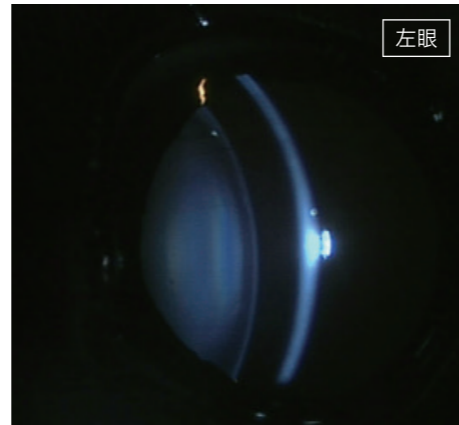
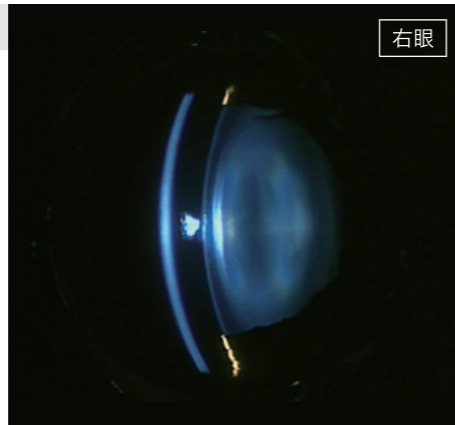
投与開始後1.5y

水晶体徹照所見



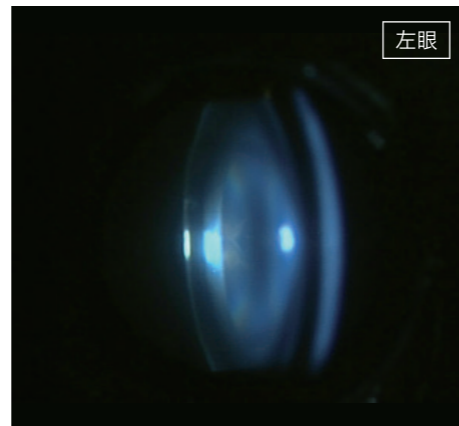
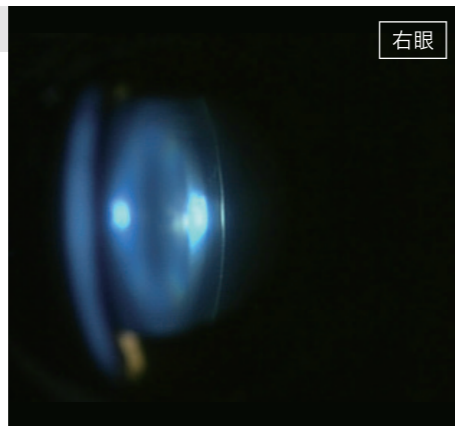
投与開始後1.5y

水晶体スリット所見(前部)
(左眼:初発白内障)



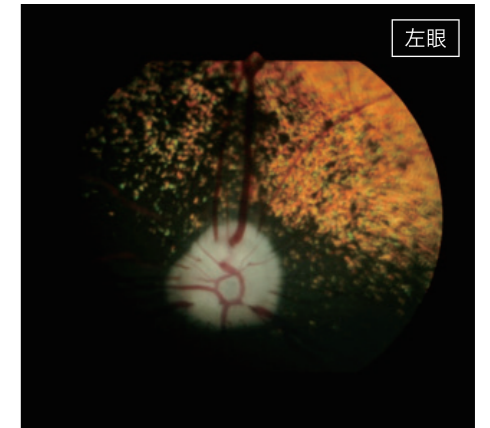
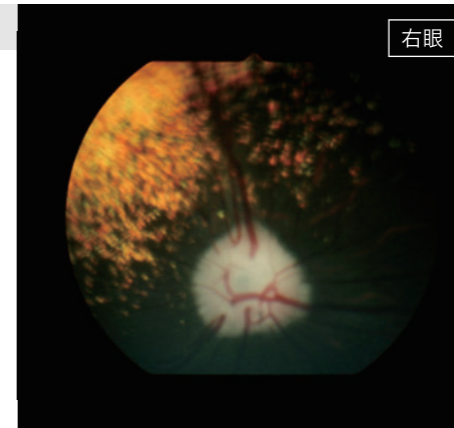
投与開始後1.5y

水晶体スリット所見(後部)



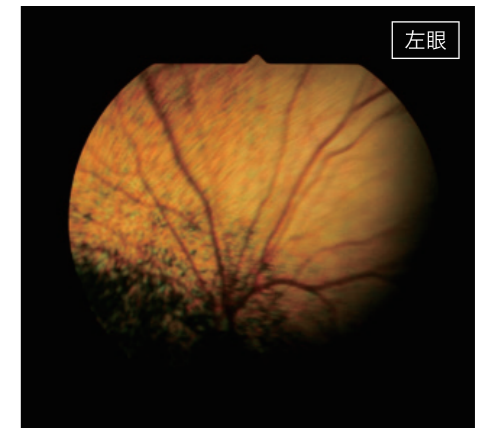
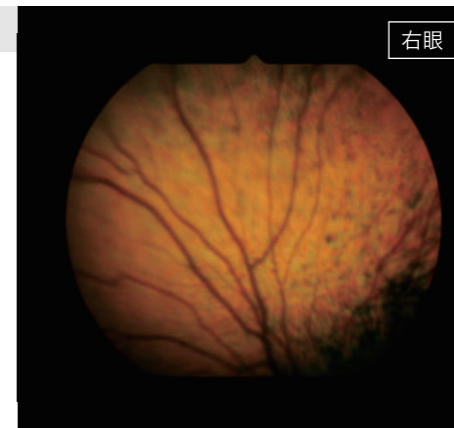
投与開始後1.5y

眼底所見(視神経乳頭)



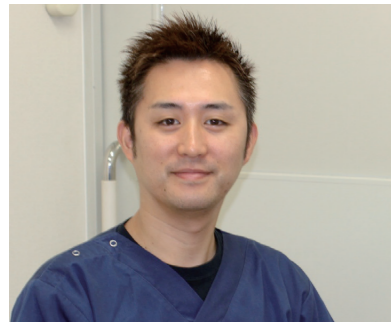
投与開始後1.5y

眼底所見(タペタム)



まとめ

両眼の水晶体の混濁を主訴に来院された犬において、両眼の水晶体核硬化症が観察されました。また暗所での視覚の低下もみられるとのことでしたが、眼底所見には特に異常はみられませんでした。これらの症状は水晶体および網膜における加齢性の退行性変化であると考えられ、すぐに視覚に影響するものではありませんが、進行した場合には視覚を障害する可能性が考えられます。Duo One Eye R&Cの投与開始から1年半が経過していますが、左眼にわずかな白内障が認められるものの、眼底所見には異常はみられず、良好な視覚が維持できています。



獣医師紹介
辻田 裕規先生
 どうぶつ眼科専門クリニック
 院長
 アメリカ獣医眼科専門医
 獣医眼科学専門医



左眼
 急性原発緑内障

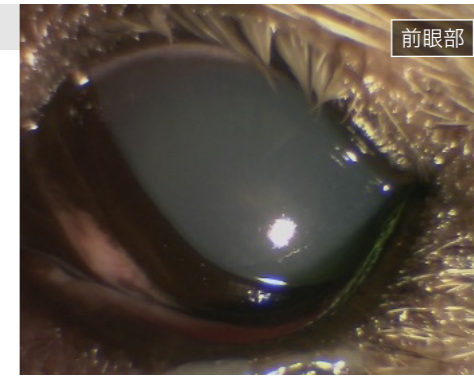


写真1

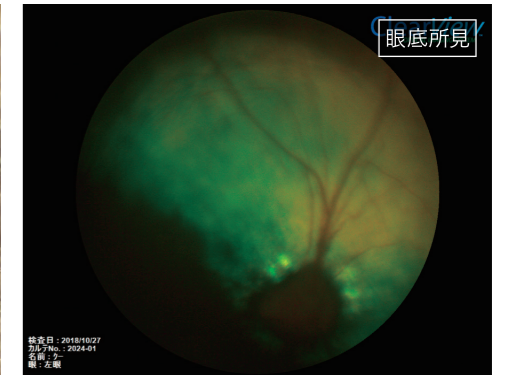


写真2

右眼
 慢性原発緑内障
 水晶体後方亜脱臼



写真3

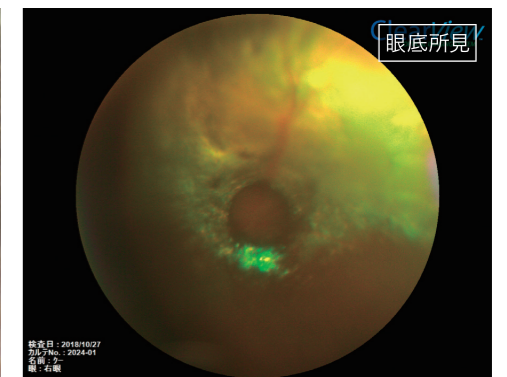


写真4

左眼
 隅角インプラント設置術

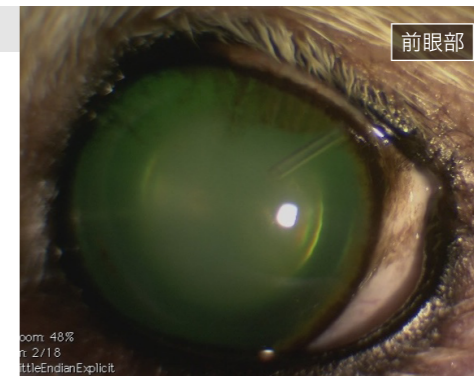


写真5

【症 例】柴犬 9歳 未去勢雄 体重:7.8kg

【診断名】**左眼：急性原発緑内障** (写真1,2)
右眼：慢性原発緑内障/水晶体後方亜脱臼 (写真3,4)

処方サプリメント：Duo One Eye G

処 方 期 間：2年2ヶ月

■ 併用点眼液(初診時)

- 【両 眼】 ジクロフェナクNa点眼 …………… 1日2回
- タフルプロスト0.0015%点眼 …………… 1日2回
- 1%プリンゾラムド/0.5%チモロールマレイン酸塩点眼 … 1日3回
- オキュソフト リッドハイジーン専用コットン …………… 1日2回
- ジクアホソルNa点眼 …………… 1日3回

【左 眼】 隅角インプラント設置術(写真5)

【右 眼】 シドフォビル硝子体内注射処置

■ 併用点眼液(現在)

- 【両 眼】 ジクロフェナクNa点眼 … 1日1回
- ソフトサンティア点眼 …… 1日2回

使用の経過

初診時より左眼への緑内障に対して使用開始。

すでに緑内障網膜症・視神経症を呈していたが、現在も視覚を維持できています。

まとめ

Duo One Eye Gは緑内障網膜症に対する神経保護効果に期待して、本症例のように視覚のある/視覚の回復のある緑内障犬・猫に処方しています。また、緑内障網膜症の病状進行の遅延化と、緑内障網膜症・視神経症で残念ながら視覚が消失していても、網膜変性からの白内障形成とそれに伴う合併症の発症予防からビタミンEを含む抗酸化剤の投与を推奨することもあります。嗜好性が良く、特に原発緑内障は最終的に両側眼に発症しやすいことから、片側眼で原発緑内障と診断された時点からDuo One Eye Gの開始を推奨しております。